



野田村オンライン交流会

令和2年7月26日(日)に野田村交流活動オンライン茶話会を開催しました。

東日本大震災で甚大な被害に見舞われた岩手県野田村の復興支援・交流事業がはじまってから、今年度で10年目となります。例年は、弘前大学と弘前市の共催で、被災地域のコミュニティ形成支援として、盆踊り大会の運営のお手伝いやボランティア祭りへの参加、野田村内の児童へ向けたクリスマス会、東日本大震災追悼行事への参列など年間3~4回の活動を行ってきました。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、オンライン会議システム「ZOOM」を利用してオンライン上で『オンライン茶話会』を開催しました。

野田村新町地区コミュニティセンターの野田村会場と弘前市民文化交流館ホールの弘前会場(弘前市民)の二つと自宅にいる学生等を繋いで実施しました。

オンライン上では、自己紹介や近況報告、ラジオ体操や弘前にまつわるクイズなどを行い、参加者がお互いの元気な姿を見せ合って交流を行いました。

野田村交流活動オンライン茶話会に参加した弘前市民の方からお話を伺いました。

♥ 鳴海さん

企画してくれたことに感謝です。オンライン茶話会は初めてでしたが、みんなに会えて(ボランティアと野田村の方)、サツパリしました。野田村の会場が夏祭りの盆踊りの会場だったので懐かしくもあり面白かった。オンラインだからこそ、会えた(弘大事務局のOB)人もいたので嬉しかったです。

♠ 森さん

大変良かった。コロナで会えないと思っていたのがオンラインでも会えてよかった。

♥ 村上さん

気になっていたもので、久しぶりに顔を見ることができて良かった。

◆ 熊谷さん

不慣れで顔も見えづらかったせいか、野田村に行きたくなった。

♥ 太田さん

初めてなので、思うように話せなかった。野田村に行けないのが残念だと思いました。

♠ 中畑さん

直接会いたいと思った。

◆ 菊池さん

初めての事で戸惑いも多くマスク着用のため聞こえづらい所もあった。

♣ 成田さん

人数制限もあり、物足りないような気がした。

♥ 赤石さん

久しぶりで懐かしく感じました。マスクで顔が見えないのが残念だったけど、仲間(ボランティアと野田村の方)に会えて、嬉しい企画だと思った。参加できてよかった。楽しかった。

♠ 土岐さん

今流行り(オンライン)と言うのか、10年前には考えられなかったことに戸惑いもあるが、被災地周辺のハード面も大分進んでいる中で、このような変化に、大きな影響を受けて考え方にも変化が生まれたのではないかと自分は今でも、野田村で関わった方々の何人かに時々電話連絡をしている。「どうしてる、元気であらう」と繋がりが続けることが大事だと思っている。

♠ 池田さん

物足りなかった。もっといろんなこと、今どうなっているのか、これからどうなるのか、コロナ対策も知りたかった。

♥ 下山さん

いい企画だと思った。目で見るのができて、元気そうな様子が分かって良かった。オンラインでも、交流は大事だと思った。



どんなものなの？ 一日体験ボランティア

みなさん、「ボランティア」というとちょっと重い感じや近寄りがたいイメージはありませんか？なんだか敷居が高いような気がして、やってみたいと思っけていてもできないという方も多いのではないのでしょうか。

そこで、弘前市ボランティア支援センターではボランティアを気軽に体験する機会として、様々な活動の中から、市が用意したプログラムに参加する「一日体験ボランティア」という取り組みを行っています。

今年度は、7月19日に市民協働課が実施した「フォーラムの開催」のお手伝い、8月8日、9月5日は中央公民館の「子ども自然観察クラブ」の野外観察のサポート、10月10日は環境課の「スポGOMI大会 in 弘前」という環境イベントのボランティア審判員、11月29日には弘前図書館での「リサイクル図書」のお手伝いという4つのメニューで5回実施します。この、一日体験ボランティアとはどんなものか、すでに終了した3つの一日体験ボランティアに参加した方の声を交えてご紹介します。

『一日体験ボランティア』
協働♪まちづくりフォーラムをお手伝い
令和2年7月19日（日）
弘前市民文化交流館 ホール（ヒロコ4階）



協働♪まちづくりフォーラム ボランティア感想

イベントを開催するには、様々な準備が必要で、たくさんの方々の協力があるということに改めて感じました。

また、弘前の知らないところもたくさん知ることができ、とても良い経験を積むことができました。家族にも伝えたいと思います。

写真：協働♪まちづくりフォーラムの知って納得★協働クイズ！
正解は「1」！

協働♪まちづくりフォーラム開催！

皆さんは7月の一日体験ボランティアのメニューになった「協働♪まちづくりフォーラム」をご存知でしたか？

弘前市では「協働によるまちづくり基本条例」を定めていて、市民が主役となり住みやすいまちを自分たちでつくる取り組みを進めています。そのひとつとして、町会、NPO、ボランティア団体など地域の皆さんの活動を支援する「市民参加型まちづくり1%システム」という補助金制度を設けています。なんと補助金の審査をするのも市役所の職員ではなく、市民の方なんです。市民の市民による市民のための補助金といった感じです。これまでに1%システム補助金を使っけてのべ500を超える事業が行われています。

今回は、1%システム補助金を使った活動の実演も取り入れた報告会を、会場づくりやイベントの小道具づくり、受付などを一日体験ボランティアの皆さんが支えました。フォーラムでは、知って納得★協働クイズ！というクイズの時間もあつたんですよ！ボランティアを体験しながら、フォーラムも見学でき、弘前のまちづくりも学べるなど一石二鳥、三鳥の体験ができたようです。

フォーラムの担当者は「まちづくりは難しいものではなく、みなさんにもできるんです。住みたいまち、住んで良かったと思えるまちにつながる活動がまちづくりです。今回のようなボランティア活動のほか、町会活動やお祭りなどの地域行事の参加、ごみ拾い、子どもの見守り活動など身近なところでたくさん行われています。みなさんにもできるところから始めてください！」とPRしていました。



『一日体験ボランティア』
 子ども自然観察クラブ
 植物園で俳句を一句のお手伝い
 令和2年9月5日（土）中央公民館・植物園

1 自己紹介と活動の注意を聞きます。



2 子どもクラブ員と一緒に今日の活動を教えてもらいます。



3 植物園に到着！



4 園内はスモークツリーが見ごろでした。



5 道端でも突然観察ははじまります。見守りは欠かせません。



6 子どもクラブ員は句作に四苦八苦？発表をみんなで聞きました。



クラブ終了後振り返りを行って解散。お疲れさまでした！

「子ども自然観察クラブ」自然に親しむ俳句教室～植物園で俳句を一句～のお手伝い ボランティア感想

参加して良かったのは、子どもたちとふれ合えたこと。普段虫が苦手だけど、今日はまた違った視点から観察することができて、自然ってすごいなあと感じることもできました。

「子ども自然観察クラブ」弘前公園のトンボ～種類と見分け方～ ボランティア感想

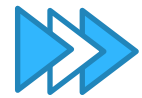


一度かごを落としてトンボを全部逃がしてしまった子が最後の最後にトンボをまた捕まえることができるとても感動しました。子どもたちと一緒に楽しくトンボやたくさんの虫を観察することができてよい経験ができました。

思ったより、気軽に参加できそうだと思いますか？今度は皆さんの参加をお待ちしております。



「手話であいさつしてみませんか」



みなさんは手話をご存知ですか？

最近では記者会見の映像で手話通訳者が横に立つ場面を目にすることも増えてきました。

手話通訳者の公的資格である手話通訳士は合格率11%と狭き門となっています。覚えるのが難しいと感じたかもしれませんが、ひとつひとつの単語は決して難しくありません。

例えば、「こんにちは」は顔を時計の文字盤に見立て12時を指すように立てた人差し指と中指を額に当て、向かい合わせた両手の人差し指を折り曲げます。「ありがとう」は左手の甲から右手を縦に垂直に上げます。「よろしくお祈いします」は右手のにぎりこぶしを鼻にあてて、少し軽く前に出し、手を開いて指をそろえて前に少し出します。

手話を学んでみたいという方は、広報ひろさきでお知らせしている体験講座や手話奉仕員養成講座を受講してみたいかたがたでしょうか。また、手話に興味があっても敷居が高いのではと二の足を踏んでいる方には「しゅわさろん」もあります。毎月第4土曜日午後2時から4時まで、ヒロロ3階で行われており、聴こえる人(手話のできる人、わからない人)と聴こえない人に関わらず、手話を使ってお話ししたり、手話を使ったゲームをしたり、楽しい交流の場となっています。事前の申込みは必要ありませんので、お気軽に足を運んでみてください。



※こんにちは

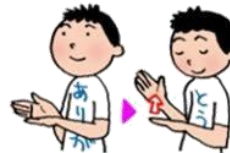
①人差し指と中指を額の中央に当てる



②両手の人差し指を曲げる



※ありがとうございます



編集後記

今年「新型コロナ」の影響で遠出もなく、弘前公園の散歩が日課となりました。

先日、お気に入りの弘前公園を散歩していると、いました!!「アマビエ」が。藁で作られたアマビエはとてもありアルで、若干怖い…。でも可愛い…。(笑) 早く「アマビエ」の力で疫病退散!!コロナ退散!!して欲しいと、何かおもわず手を合わせてしまいました。

日々の生活が落ち着くまで、まだまだ時間がかかりそうですが、人と人、まちとまち、国と国が協力し合い、早く以前の生活に戻れるといいですね。

ちなみに、あるお店では「アマビエカレー」なるものを販売していますが、思わず「アマエビカレー」と言ってしまうのは、私だけではないと思います。

木村聡美



※よろしくお祈いします



協力：弘前市聴覚障害者協会事務局 外崎真妙子さん

豆知識

野菜販売店あるある 食用菊の巻



普段から食べている物でも調理前の状態をしらないと間違ふこともあります。食用菊を一輪そのまま袋に詰めたものを買っていったお客さん。花卉だけ採って茹でるのではなく、そのまま花の状態茹でて食卓へ。「苦くて食べれなかった」とのことでした。



<制作>市民ボランティアスタッフ
<制作協力>弘前市ボランティア支援センター
〒036-8003 弘前市大字駅前町9番地20 ヒロロ3F 弘前市民参画センター内
TEL:38-5595 FAX:36-1822
HP:www.city.hirosaki.aomori.jp/volunteershien/
情報紙についての意見・感想を待ちしております。